

吟 稲吟OB会会報

No. 28

稲吟会ホームページ <http://www.togin.org/>
稲吟OB会 <http://www.togin.org/alumni/> 稲吟会 <http://www.togin.org/toginkai/>

発行：2007（平成19）年12月1日 発行者：早稲田大学稲吟OB会事務局
編集発行責任者：高橋 優（OB会事務局付）通巻第28号「稲吟OB会NEWS」改題

目次 会長・前会長挨拶 ...1,2 / 2007年度定例総会報告...3-5 / 発表会開催さる...5 / 稲吟会だより...6,7 / 事務局から...8

定例総会にて新会長に大竹茂行氏（平3）を選出

2007年11月11日（土）に2007年度の稲吟OB会定例総会が開催されました。小出秀文会長（S48）の後任として大竹茂行さん（H3）が新会長に選出されました。（3面に詳報）

ご挨拶 稲吟OB会のあり方とは

稲吟OB会会長 大竹茂行（H3）

この度、小出前会長の後任として稲吟OB会会長を仰せつかることになりました。稲吟OB会は50代・350名を超える大所帯であり、また、3年後には55周年記念大会も控えており、責任の重さに改めて身が引き締まる思いです。卒会してから17年、これまで様々な形でOB会に関わってきましたが、会の中ではまだまだ若輩者でございます。至らぬ点多いとは思いますが、皆様からのご指導をいただきながら、職責を果たしてまいりたいと存じます。

さて、OB会とは、どのような組織であるべきか。会員の皆様には、様々なご意見があることと思いますが、私自身の中に確たるものがあるわけではございません。ただ一つ言えるのは「現役あつてのOB会」ということです。私が稲吟会に入会した昭和62年（1987年）当時、4年生は6人、3年生は3人、そして2年生は1人（後に1人入会して2人）と、会の存続が危ぶまれる状況でした。そこで危機感を持った当時のOB会の諸先輩方が、大量のポスターやビラ（何と1万枚！）を制作するなど新入生勧誘活動に一致団結して取り組んだというエピソードを入会後に聞きました。当時、物珍しさからか、毎週のように多くのOBの諸先輩に部室や飲み会にご臨席賜ったことが昨日のことのように思い起こされます。もちろん、今と当時では時代も状況も違います。ただ、現役あつてこそ、という思いを持って、OB会として何をすべきなのか、何ができるのか模索していきたいと考える所存です。



3年後の55周年は大きなテーマですが、当面はOB会活動の活発化 現役諸君との交流拡大 の2つに取り組んでまいりたいと思います。については、前述しましたがOB会は50代・350余名の大所帯です。また居住地も北は北海道から南は九州まで、全国各地に及んでいます。これまで、どうしても東京中心の活動でしたが 地方在住の皆様活動をいかに活性化していくのが課題だと思っています。また、年代ごとの会員の活動についても、OB会として支援できないか、と思っています。具体的な案があるわけではありませんが、今後、検討していきたいと思っています。については、小出前会長が取り組まれた現役諸君の合宿壮行会を継承していきながら、他にできることはないか知恵を絞っていきたいと思います。会活動の活性化について、皆様から忌憚りの無いご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりますが、OB会は会員の皆様、一人一人のものであり、また、会員の皆様それぞれの関わり方があるのは言うまでもありません。一人一人、それぞれのペースでの活動があるかと思っています。仕事の都合、家庭の都合など、様々な理由で活動をお休みされることも致し方ないことだと思います。ただ、OB会が存続する限り、OB会はいつでも皆様のそばにあり、いつでも戻れる場所であることだけは間違いありません。いつでも、誰でも気軽に参加できるのが稲吟OB会の良さであり、また、それを次の時代へとつなげていくのが私に課せられた責務だと思います。今後とも皆様のご指導、ご支援のほどお願い申し上げます。

感謝そして期待

稲吟OB会前会長 小出秀文 (S48)

早くも師走の候を迎えました。全国のOB会員の皆さまにはお変わりなくご活躍のこととお喜びを申し上げます。平素のご無沙汰をお詫び申し上げます。会報に寄せてのご挨拶を申し上げます。

さて早速ながら、私は11月11日、東京・高田馬場にて開催されました総会でOB会長を退任いたしました。後任の新会長には大竹茂行君(平成3年卒)が就任くださいました。私が会長の間、長いこと支えていただいた副会長で誠実かつ信頼厚い若手のホープです。なにとぞよろしくお願ひします。

若干の回顧と反省を述べさせていただきます。私は、前任の偉大なる須田先輩のあとを受け継ぎ、平成12年から五力年の在任でした。稲吟会創立50周年祝典をはじめ感慨深い各種の行事等に関与できましたことは、真に意気に感じた日々でありました。つらい日もありました。稲吟会の創設者であり慈父であった青木敏昭先輩との永久の別れは、稲吟会の精神的拠り所を見失ったような寂しさにくれましたし、確実に時代の移ろいを実感する事件でした。現役執行部との交流会(幹事長他就任早々の顔合わせ)や夏合宿前の壮行会(八月末に東京で実施)は有意義な企画となりました。夏合宿には水澤先輩や伊勢屋先輩が必ず駆け付けていただきご指導をいただいている由、感謝でいっぱいです。しかし、総会にて、ご指摘を頂いた「OB会員の交流企画」は今後の課題となりました。さらには50周年記念誌の刊行が未完でありますことは深く反省しつつ必ずやの刊行を誓っています。原稿を早々にお寄席せ頂いている方々にはあらためてお詫びを申し上げます。

いずれにいたしましても、我が稲吟OB会は新しい時代を迎えました。大竹新会長のもとで、350名を超える会員にとり本会がいつまでも心の拠り所として名実ともに発展し続けますことを祈念し、この上は新会長はじめ新体制をご支援申し上げたいと考えています。

結びに、この日を迎えることができましたことは、皆様のご支援・ご協力のお蔭さまでありまして、心から感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。

平成19年12月 東京柳橋にて



新会長に大竹茂行氏（平3）を選出，新体制発足

2007年11月11日（土）cafeMiyama 高田馬場店会議室において，2007年度の稲吟OB会定例総会が開催されました。当日は11名のOBに加え，オブザーバーとして稲吟会の前執行部の諸君も参加して，稲吟会の現状について議論が及ぶなど，活発な議論が行われました。

小出会長の勇退に伴い新会長の選出が行われ，小出会長より推薦のあった大竹茂行さん（H3）が会場の参加者の拍手の中あたらしい会長として選出されました。副会長には大竹新会長の推薦にもとづき，田尾秀寛さん（S44），松村哲郎さん（S48），菅原均さん（H4）が選出されました。

また，長年副会長としてOB会を支えた藤田和夫さん（S45），会長としてOB会の発展に尽力された小出秀文さん（S48）のお2人の顧問への推挙が新会長より提案され，全会一致で承認されました。

稲吟OB会新執行部

顧問	野中民蔵（S40）藤田和夫（S45）小出秀文（S48）
会長	大竹茂行（H3）
副会長	田尾秀寛（S44）松村哲郎（S48）菅原均（H4）
会計監査	山田仁史（H1）
事務局	板倉真介（H10）

2006/2007年度 通常会計 決算

収入の部			支出の部		
費目	当初予算	決算	費目	当初予算	決算
前年度繰越金	1,222,681	1,222,681	通信費	150,000	82,740
年会費 ^{*1}	400,000	698,000	対稲吟会支援	120,000	120,000
寄付金 ^{*2}	0	100,000	通信費補助(対稲吟会)	60,000	60,000
			会報製作費	60,000	6,360
			広報関係費	30,000	3,390
			行事関係費	150,000	38,660
			慶弔費	30,000	0
			役員会議費	50,000	0
			事務局経費	30,000	5,208
			記念大会特別会計繰入	0	0
			地方等支援	20,000	0
			振込手数料	7,000	870
			予備費	915,681	0
			次年度繰越金	0	1,703,453
合計	1,622,681	2,020,681	合計	1,622,681	2,020,681

^{*1}103件

^{*2}青木敦子様より(2007年2月)

2006/2007 年度活動報告

・2006 (平成 18) 年

10月21日	稲吟会第51回大会支援	戸山教育会館
10月21日	2006年度定例総会	cafeMiyama (高田馬場)
12月9日	稲吟OB会会報26号発行・年会費請求	事務局

・2007 (平成 19) 年

6月	稲吟会ウェブサイト www.togin.org に移設	
8月27日	稲吟OB会会報27号発行・年会費請求	事務局
8月31日	稲吟OB会・稲吟会 交流行事	新宿ライオン
9月4-7日	稲吟会夏合宿 (千葉・岩井海岸) 支援	

2007/2008年度(2007/10/1-2008/9/30)通常会計 予算

収入の部			支出の部			
費目	前年決算	予算	費目	前年度予算	前年度決算	予算
前年度繰越金	1,222,681	1,703,453	通信費	150,000	82,740	200,000
年会費*	698,000	500,000	対稲吟会支援	120,000	120,000	120,000
寄付金	100,000	0	通信費補助(対稲吟会)	60,000	60,000	60,000
			会報製作費	60,000	6,360	60,000
			広報関係費	30,000	3,390	30,000
			行事関係費	150,000	38,660	150,000
			慶弔費	30,000	0	50,000
			役員会議費	50,000	0	50,000
			事務局経費	30,000	5,208	80,000
			記念大会特別会計繰入	0	0	1,000,000
			125周年記念事業寄付補助	0	0	200,000
			地方等支援	20,000	0	20,000
			振込手数料	7,000	870	5,000
			予備費	915,681	0	178,453
			次年度繰越金	0	1,703,453	0
合計	2,020,681	2,203,453	合計		2,020,681	2,203,453

* 5,000円×100人

2007/11/8

2007/2008 年度活動計画

・2007 (平成 19) 年

10月27日	稲吟会第52回大会支援	葛西区民館
11月11日	2007年度定例総会 (本日)	cafeMiyama (高田馬場)
12月	稲吟OB会会報28号発行・ OB会員名簿発行・年会費請求	事務局

・2008(平成20年)年

- 3月 稲吟会春合宿支援
- 8月 稲吟OB会会報29号発行・年会費請求 事務局
- 8月 稲吟会・OB会交流行事
- 9月 稲吟会夏合宿支援

早稲田大学創立125周年の寄付に参加しませんか

OB会報27号でご案内した早稲田大学創立125周年の記念について、稲吟OB会としても20万円規模の団体寄付を行うことがこの総会にて決議されました。

稲吟OB会通常会計より20万円を拠出し、これにOB・OG有志からの寄付を加えて、年度中に稲吟OB会として早稲田大学に寄付いたします。団体寄付の場合、総額20万円以上で大隈講堂内に稲吟OB会の名を刻することになります。

年内にOB・OG諸兄からの寄付を取りまとめ、年明け早々にも寄付の手続きを行う予定です。稲吟OB会とともに寄付をお考えの方は、とりいそぎ寄付のご意向を、年内に事務局会計担当(板倉; kaikai@tugin.org)までお申し出ください。

大学の創立125周年記念事業については、下記ページをご覧ください。

<http://www.waseda.jp/waseda125/>

早稲田大学稲吟会第52回大会開催される

2007年10月27日(土)に、早稲田大学稲吟会の発表会が葛西区民館にて開催されました。当日は台風の影響で激しい風雨に見舞われたものの、学生諸君の熱のこもった吟や舞に会場内は沸きかえりました。OBも13名が駆けつけ、声援を送りました。



◆◆ 稲吟会だより ◆◆

発表会を終え、第53代執行部に引き継がれる

10月の26日に発表会を成功裏に終えた後、第52代執行部は解散し、根間博之幹事長率いる第53代執行部へとバトンが引き継がれました。今回は、根間新幹事長および52代執行部の任を終えたばかりの嘉部前幹事長、金田前指導幹事から寄稿していただきました。

素晴らしき1年間のために

第53代幹事長 根間博之（社学2）

私は、稲吟会が嫌いでした。昨年1年間副幹事長を務めたものの当初の理想とは程遠く、助け合うはずの他の執行部とはすれ違いを繰り返し、稲吟会に在籍することにさえ意味を見出せなくなっていました。鬱憤ばかり溜まり、稲吟会と自分の人生を天秤にかけては過ごした時間の虚しさに後悔の念さえ感じていました。そして自分で壁を作って距離を取り、諦念で自分を拘束して塞ぎ込んで憎悪を頭に巡らせていたのです。しかし、夏合宿を経て次代を視野に入れて本音で会員と会話をするうち、少しずつではありますが変化を感じることが出来るようになりました。そして、第52代執行部解散の際は涙が止まりませんでした。どうしようもなく会員の誰もが、そして稲吟会そのものが愛しくて、いつまでもその場に留まりたいという気持ちが溢れてきました。その思いは、とある飲み会で私が記憶を無くした際に「お前らが好きでたまらないんだ」と叫んでいたと伝え聞いたときに確信に至りました。理性の障壁を取り除いた本当の自分が、稲吟会を愛していたのです。

私は稲吟会を憎みました。そして今、私は稲吟会を愛しています。稲吟会はすべてを受け止めてくれました。今も会員とのすれ違いは絶えません。自分のすべきことと自分のしたいことの違いにも葛藤があります。それでも私は稲吟会を愛しています。稲吟会は数多くの側面を持っています。数多くの会員がいます。そして、会員と表面的な付き合いのみで済ませられるようなサークルではありません。きっとこれからも会員とのすれ違いを繰り返し、時にこのサークルを憎んでしまうこともあるでしょう。しかし、私は、稲吟会がその憎しみを受け止めてくれるということを知っています。すべてを曝け出しても受け止めてくれる会員達がいるということを知っています。私は、稲吟会を信じています。そして、この素晴らしきサークルのために一年間を捧げることにもはや迷いはありません。身を粉にして稲吟会のために働きたいと思っています。まだまだ至らない部分もあるとは思いますが、OB・OGの諸先輩方、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

1年間を通して

第52代幹事長 嘉部好洋（理工3）

先日、1年間の総括である後期定例総会を終えて、無事に幹事長という役職を解任となりました。今回は後期の活動を中心に触れつつ、自分の1年間を振り返ってみたいと思います。

前期は100キロハイクや早慶戦などのイベントに参加して、「まず稲吟会を楽しんでもらうこと」を活動の中心としました。後期はそれとは異なり、詩吟の練習が活動の大半を占めまさに発表会一色でした。

正直なところ、前期の中盤から私自身モチベーションが低下してしまった時期が続き、普段の活動をまとめきることができず、自分の思いと会の方向が乖離してしまうことが続いたからです。でも、もしこのまま適当に飲んで遊ぶだけで終わってしまったら、この1年間が虚しいものになってしまうだろう。そのようなとき、なぜ自分が幹事長に立候補したのかを周りの会員と共に考えてみました。「稲吟会、そして自分の学生生活をより面白いものにしていきたい。」そして、「稲吟会を、誇りを持てるサークルにしたい。胸を張って見せることのできる発表会を作り上げたい。」そのような思い・目的を私自身、そして周りの会員の中に再確認できたときから、再び会が一つにまとまり始めました。

夏合宿を始めとして、後期は前期とは比べ物にならないほどの練習の量、そして質の高さを求めて練習を行ってきました。また週に1回以上の会議を通じて、発表会の演目や流れなどを確認し、本番へ向けての準備を進めました。

そして発表会本番。当日は台風という悪天候に見舞われながらも、OBや会長、水府流の方々、友好サークルや英山流、以前からお付き合いのあった吟詠団体の方々など、様々な方にお越しいただいて、大いに賑いました。また、発表を見ていただいた方々から好評をいただき、無事に良い発表会を終えることができました。

この一年間が成功だったかどうかは、いまだに悩むところがあります。でも、10人の新入生を迎えることができ、ほとんどの会員が会に残り続けてくれたこと、そして発表会と一緒に乗り越えることができたことから、会として実りのある1年間であったと思います。また私自身、サークルという場作りを通じて他の会員とより深い交友関係を得られたこと、そして理工と稲吟会を両立しながら充実した学生生活を送ることができたことは、今後の私の一生の宝になるのではないかと思います。

これからも一会員として恥ずかしくない行動を心がけ、また自分の勉学にもより一層励んでいきたいと思う次第です。稲吟会を支えてくださった全ての方々、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

発表会を振り返って

第52代指導幹事 金田和歌奈(法3)

発表会の最後、校歌を歌いながら、私はまだ幕が閉じていないにも関わらず、涙を抑えることができませんでした。

この1年間、思えば発表会のことばかり考えて来ました。壮大で輝かしかった50代、小さいながらも温かみのあった51代。そんな2年間を見てきて、では私達はどんな発表会を目指せば良いのか。夏休みになってもその方向性は定まることはありませんでした。

そんな時に出会ったのは、あるOBの先輩のお言葉でした。「久しぶりに稲吟会に来て、こういう和気あいあいとした雰囲気が変わってなくてうれしいよ。この和気あいあいさこそが、稲吟会の良いところだね。」私達はこの1年間、皆が居心地の良いと感じられるような会を作ろうと目指して来ました。だからこの言葉は私にとって何よりもうれしいお褒めの言葉でした。そして、その時同時に、今のこの姿をもっと多くの人達に知ってほしい、と強く思ったのです。

稲吟会の発表会に来る方々が、共通していったい何を見たいかという、「今の稲吟会は何をしているか」ということだと思います。今の姿に昔を思い出して懐かしむ方もいれば、息子の元気な姿を見て喜ぶ方もいる。そんな方々に、「稲吟会は昔どおりの仲の良さ・あたたかさで、毎日詩吟をしています。」と伝えられるような発表会にしたいと思いました。

方向性が決まってからはあっという間でした。発表会の達成感は何だけの時間と力を練習に注ぎ込んだかで決まると考え、毎週全体練習を行い、その他にも有志で区民センターを借りて練習を重ねました。その甲斐あって、本番も多少のアクシデントはあれども、全員が精一杯力を出し切ることが出来たと思います。

そして、最後。私達が校歌を歌っていると、1人また1人とOBの先輩方が立ち上がり、声をそろえて歌い始めました。先頭に立つ幹事長、それに続く会員、OB・OGの先輩方、家族、友情校、友好サークル、今まで交流してきた吟詠団体の方々。それを見ていたら、今までこんなにも多くの人と知り合い、支えられてやってきた3年間のあたたかさを感じ、涙が止まりませんでした。迷ったことも多くありましたが、こんなにもあたたかい気持ちを与えてくれた稲吟会を、今は誇らしく思う気持ちでいっぱいです。人は変われど、変わらない稲吟会のあたたかさを、これからも守っていききたいと思います。

最後に、未熟な私達を支えてくださった先輩方に、改めて心からお礼を申し上げますと共に、これからもご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

◆◆ 事務局から ◆◆

年会費の納入にご協力ください

会員の皆様には、年会費（5,000円）の納入をお願いしております。ご協力誠にありがとうございました。なお、まだお支払いでない方は下記の口座にお納めください。なお、2年以上お振込の確認が出来ない場合、名簿・会報の郵送サービスが停止されます。

各位の会費納入実績につきましては、稲吟OB会事務局会計担当の板倉真介（H10）にお問合せください。

お問合せは往復はがき、もしくは電子メールにてお願い致します。電話でのお問合せはご遠慮ください。

・往復はがきでのお問合せ方法

往復はがきにて会計担当の板倉（H10）までお問い合わせください。

その際、ご自身の氏名、住所、卒業年度を返信面にご記入ください。

・電子メールでのお問合せ方法 kaikai@togin.org 宛てに氏名、住所、卒業年度をお知らせください。お答えできるのは、お問合せを頂いたご本人の納入実績に限ります。

口座名：早稲田大学稲吟OB会 振替 00150-7-61740

年会費 5,000円（昨年度より減額されました）

・恐れ入りますが振替手数料はご負担ください。

会員近況情報

OB会員名簿正誤

今回お届けした名簿（2007年度版）について、以下の2点をご修正ください（略）。

名簿の内容について変更などありましたら、電子メールにてお知らせください。アドレスは、meibo@togin.org です。

.....

～ 担当者から ～

新執行部の発足に伴い、私の担当するOB会報もこれで最後となりました。15年にわたるOB会の活動の中で、50周年記念大会やウェブサイトの立ち上げなど、「大人のサークル活動」を大いに楽しみました。今回、OB会の人事が一新され、執行部の陣容も一気に若返りました。新たな半世紀を担う「新たな力」と共に発展していくOB会を、今度は一会員として支えたいと思います。（たかはし）